6月25日から7月13日にかけて

令和元年度村政懇談会を開催しました

村では、今年度も地区自治会との共催で村政懇談会を開催しました。内容は各地区自治会で決定し、村執行部からの事業紹介や村長との懇談のほか、ワークショップや分科会方式などを取り入れた地区もあり、有意義な村政懇談会となりました。そこで各地区での懇談の内容等について一部ご紹介します。詳細は、村公式ホームページに掲載予定の議事録をご覧ください。

■問い合わせ 地域づくり推進課(☎282-1711 内線1461)



石神地区 子どものスマートフォン使用について マンペート

期日▼6月25日/場所▼石神コミュニティセンター/参加者▼121人

内宿二区住民:最近の子どもはスマートフォンに依存している。学校で禁止してほしい。

教育長:スマートフォンの学校への持ち込みは禁止している。スマートフォンに限らず、 学校に必要のないものは持ち込まないことを徹底している。幼児期にスマートフォン等 でゲームをしていた子どもは中学生頃に集中力が欠け、反社会的な方向に進む傾向が多 いと新聞でも取り上げられていた。小学校から中学校に上がるとさらに依存度が高くな るというデータもあるため、その危険性についても伝えていきたい。



期日▼6月29日/場所▼白方コミュニティセンター/参加者▼I部(ワークショップ)…90人、II部(自由意見交換会)…87人

2つのテーマ(元気な高齢化社会の実現、地域活動協力者の仲間づくり)について、それぞれ3つのグループに分かれてワークショップを実施し、最後に代表者から意見の発表がありました。

元気な高齢化社会の実現について

- ▼ボランティア活動を通して、子どもたちに「奉仕することの大切さ」を伝えていきたい。世代間交流などを含め、昔の遊びなど、子どもと親、子どもと地域間の関わりに興味を持たせることが大切。
- ▼高齢者にとっては、資源物を専用のステーションまで持って行くのは負担が掛かる。 近所で協力し合うことはもちろんだが、負担が掛からない方法を、地域と行政が一 緒になって考えていくことが必要だと思う。
- ▼各種行事は回覧や広報誌等で周知するだけでなく、隣近所や知人を通して、直接声を掛けるのが効果的だと思う。初参加の人にも「参加して良かった」と思ってもらえる行事にしたい。それぞれが得意とする分野での役割を継続できる仕組みも必要。



地域活動協力者の仲間づくりについて

▼全体の業務内容を見直し、行事の軽量化や組織のシンプル化を進めることで、役員のなり手が少ないといった環境を改善させるきっかけになればと思う。



- ▼地域の輪を広げるには、自治会の行事内容を、若い人が参加しやすいものにすることが大切。子ども会も有効的に活用し、幅広い世代が力を合わせ、それぞれの意見に耳を傾ける心構えを持てば、自然と自治会を支えていくことにつながる。
- ▼子どもの頃から、いろいろな世代の人と交流を持ち、社会的刺激を少しずつ受けることが大事だと思う。地域としても、もう少しそのような場を提供できるよう努め、目的・目標を明確にして地域活動を行っていきたい。

舟石川・船場地区 自治会活動を存続させるためにはどうするか 🔻 🚟 📠 🔍

期日▼7月2日/場所▼舟石川コミュニティセンター/参加者▼102人



舟石川一区住民:働き方改革で70歳まで働く人が増え、自治会活動の手伝いをしてもらえない。 **船場区住民**:自治会の運営委員の半数が70歳以上で、10年後が心配である。

舟石川二区住民:自治会長のなり手がいない。

村長:現役世代の人が片手間でできるようでなければ、自治会活動の存続は難しい。現役世代を入れた皆さんで変えていくしかない。例えば P T A の役員等をしていた方たちで声を掛け合って自治会活動に協力してもらうなど、つながりができていくと良いと思う。

中丸地区 原子力政策について

期日▼7月4日/場所▼中丸コミュニティセンター/参加者▼105人

押延区住民:原子力政策について、住民が話し合える場を設けるという話があったが、いつ頃開催するのか。

村長:まだ決まっていない。それぞれの思いを理解し合えるような土壌をつくることで、 一人ひとりが"自分にとっての原子力"について考えることができる。島根県松江市など

で行われた「自分ごと化会議」では、多様な意見を持つ参加者が一緒に話し合える場を作っているので参考にしたい。



期日▼7月11日/場所▼村松コミュニティセンター/参加者▼106人



宿区住民:近隣の6つの自治体と原子力事業者が原子力安全協定を締結しているが、拒否権 は存在しているのか。また、原子力発電に対する住民の意思確認はどのようにするのか。

村長:原子力安全協定上では、「拒否権」ではなく「事前了解」という言葉を使っている。多様な意見を吸い上げるのは非常に難しいため、少人数で素直な意見が言えるような場ができれば良いと考えている。時間はかかるが丁寧に取り組んでいく。

期日▼7月13日/**場所**▼真崎コミュニティセンター/**参加者**▼全体会…99人、第1分科会…38人、第2分科会…36人、第3分科会…18人

3つのテーマ(子育て・教育、生活環境、高齢者福祉)に分かれて分科会を実施 し、最後に代表者から意見の発表がありました。



子育で・教育について

- ▼今後AIの活用によって、仕事がなくなっていくことが予想される。今の子どもたちはどのような能力を身に付ける必要があるのか。
- 教育長: A | を使いこなせる力だけではなく、社会性、協調性、独創性、表現力のほか、英語力も必要になる。
- ▼国体開催に当たり、「東海村に来て良かった」と言ってもらえるよう、地域としても協力は惜しまない。

生活環境について

▼国体の前にもう一度クリーン作戦をしようという話があった。全村で一斉にクリーン作戦をする際には、 徹底してきれいにしたい。 ▼舟石川三区から原研通りに出る道は、抜け道として使われ交通量が多い。大型店舗も開店し、今後さらに交通量が増えることが予想される。事故が発生する前に整備してほしい。

高齢者福祉について

- ▼免許返納時の支援品は1度きりなので、その後の支援 を検討してほしい。電動アシスト付四輪車、歩行補助 等について、少しでも多く補助をしてもらいたい。
- ▼会話をする機会が少なくなると認知症になるリスクが 高まると言われているので、自ら外部の人と関わるこ とができると良い。問いかけに答えてくれるロボット のようなものがあれば、1人でも会話ができる。企業 等と協力して何かできると良い。